

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時):

参加プログラム: UCDAVIS GSP SS2 派遣先大学: UCDAVIS

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体
5.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他() 5

派遣先大学の概要

UCDAVISはカリフォルニアの田舎町にある、穏やかな雰囲気の中で、農業を得意分野としています。街自体も大学都市であり、また世界中から留学生を多く受け入れているため、街全体が学生に対して寛容で過ごしやすく、かつとても安全な街なので、安心して学業に集中できる環境が整っています。また自転車の街なので、移動も便利です。

参加した動機

海外留学は幼少期からの夢だったので、時間に余裕にある夏休みに思い切って参加しました。

参加の準備

- ① プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)
提出書類が同時進行で複数あるので、時間のある時に早め早めに済ませていくことをお勧めします。
- ② ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)
写真の準備などビザの手続きが一番複雑で、手間取りました。全て自分で手配することも可能ですが、余裕がない場合は旅行会社などの代行サービスに任せるのも手です。大使館での面接予約などもあるので、留学が決まった時点で準備を始めることをお勧めします。
- ③ 医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)
特に行いませんでした。
- ④ 保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)
AISという民間保険会社を利用しました。
- ⑤ 留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)
特別な手続きは行いませんでした。
- ⑥ 語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)
応募際してTOEFLを数回受験しました。事前準備としては映画や英書などで積極的に英語に触れるようにはしていました。
- ⑦ 日本から持参の方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
爪切りや綿棒や虫刺され薬など忘れがちですが、一か月を超える滞在になるとないと不便です。日本から使いたれたものを持っていった方がよいと思います。

学習・研究について

- ① プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
最低6単位の取得が必須となっており、私はアメリカ文化とアカデミックライティングの二つの授業を履修しました。授業は予習復習ももちろん大事ですが、当日話されたことに対して自分がどう感じたか、考えるかを述べることの方が重要視されていたように思います。また印象に残った内容としては、いわゆる非白人系移民が多数を占めるカリフォルニアでAmerican Ethnicityについて学べた意義は大きかったです。アメリカ文化の授業の大きなテーマであった多文化社会における周りの人間について知ることの重要性について普段の生活のなかで実感することが出来ました。
- ② 学習・研究面でのアドバイス
授業数は少ないですが、通常数か月で学ぶ内容を6週間に詰めて行うので中身はかなりハードです。毎授業で何かしらリーディングやライティングの課題が出るので大変でしたが、空き時間を使って計画的にこなしていけば大丈夫です。課題に関しては、まず教授が何を求めているかをよく把握することが重要です。向こうの教授は学生の疑問や相談にとっても親身になって応じてくれるので、積極的に質問にいくとよいと思います。
- ③ 語学面での苦労・アドバイス等
教授が強い訛りの英語をしゃべる人だった為、慣れるまでは苦労しました。現地の人は留学生という多少は気を遣ってくれますが、皆が日本人の聞きなれた英語を喋る訳ではないことを覚悟していった方がよいです。

生活について

- ① 宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
向こうの大学が推薦していたハウジングサービスを通じて申込み、三食付でプライベートルームのホームステイをしました。現地で必須となる自転車や携帯とパックになったプランが便利です。
- ② 生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
気候: 日中はとても暑く、日焼け止めが必須ですが、朝晩は肌寒いです。交通機関: 街自体がとてもコンパクトなので、自転車でどこでもいくことが出来ます。学生証があれば無料のパスも走っていますが、ラインによってだい

ぶ時間が異なります。食事：宿泊先にもよりますが、基本的にデービスに人達は健康志向なので新鮮な果物や野菜が豊富ですし、アジアレストランも多いので食事に困ることはないと思います。お金：大学への支払いや交通手段などに現金が必要となることもあるので、計画的に残しておいたほうがよいです。

- ③ 危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
デービスはとても安全で夜中にひとりで夜道を帰っても特に問題はありませんでした。ですが、安全と言ってもアメリカの中での安全なので、注意するに越したことはないと思います。医療機関は利用しませんが、分からないことがあればプログラム担当が対応してくれるので安心でした。
- ④ 要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
70万程度です。
- ⑤ 奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
もともと奨学金付きのプログラムであった為、自分で探すことはしませんでした。東大卒業生の方からの奨学金とJASSOからの奨学金を受給しました。
- ⑥ 学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)
大学のジムは学生証があれば無料で利用できるのが便利です。週末はサクラメントやサンフランシスコなど近郊の街に旅行しました。6週間なので週末の予定も早め早めに立てないと間に合いません。どこか行きたい場所がある場合は特に、事前に下調べしてツアーなど予約をした方が安心です。また大学がプログラム参加者向けに行うツアーも頻繁に開催されており、それに参加すると移動などが楽でした。

派遣先大学の環境について

- ① 参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
GSPプログラム専門の担当者がおり、全ての面でサポート体制が整っていたと思います。
- ⑨ 大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
全てにおいて問題なかったです。強いて言うならば、食堂は高い上に午後二時過ぎには閉まってしまうので不便でした。ですが複数の業者が入っていて美味しいので、たまに食べる分にはいいと思います。

プログラムを振り返って

- ① プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
煩雑で面倒な必要書類や宿泊先の手配に始まり、滞在二週間目からホストマザーが入院したり、予約したツアーがキャンセルになったり、旅行先でけがが悪化したりと6週間でハプニングも多く起こりましたが、一つ一つに対処する中で、それまで親や周囲に頼り切りだった私も多少成長することができたかなと思います。
大学の授業を通しては、短時間で要点を読み取る能力、自分の意見を簡潔かつ論理的にまとめる能力が身についたように思います。現地で学んだこと、感じたことを無駄にしないよう、今後の生活に活かしていけたらと思います。
- ② 参加後の予定
未定ですが、またこのような留学の機会があればぜひ参加したいと思っています。
- ⑩ 後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
現地の大学生に交じて正規授業を受けることができるこのプログラムは、“英語を学ぶ”ではなく“英語で学ぶ”を考えている学生には最適だと思います。現地での生活に加え、東大の授業との兼ね合いなど不安要素はいくらでもあるかとは思いますが、一歩踏み出すことで得るものはとても大きいです。迷っているならば、ぜひ思い切って参加してみることをお勧めします！

その他

- ① 準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
特にありません。
- ② その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 前期教養学部文科一類2年

参加プログラム: summer session 2 派遣先大学: University of California Davis

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) ③.公務員 4.非営利団体
5.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

カリフォルニア大学の一部であり、農業など理系学部が特に有名な割と小規模の大学。

参加した動機

ひとつは現地の人と同じ授業に参加することで英語力をのばすこと、またアメリカでの大学の授業を体験してみること。また、将来の長期留学を視野に入れて、留学を一度体験しておくため。

参加の準備

① プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

書類は不備が見つかる可能性があるため早め早めに提出するに越したことはないと思います。特にファックスして送るものは黒くなって送った先で見えない可能性が高いので。

② ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

ビザの種類は留学の際の標準的な F1 ビザで、アメリカ大使館に申請しました。申請の際に支払いが必要であったり大使館での面接の日程が限られていたりしてこちらも早めに準備を始めておく方がいいと思いました。特にアメリカ大使館はセキュリティが厳しいのと長期休暇前はビザの申請が増えるみたいなので、当日も早めに行った方が行列を避けることができます。面接自体とそのあとのビザの送付はとても速かったです。

③ 医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

特に行いませんでしたが、歯医者に行って虫歯は確かめてきた方がよかったです。

④ 保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

クレジットカード付帯の海外保険を、支払いが必要がないことを確認して持っていました。さらに、現地についてから現地の大学の保険にも加入しました。

⑤ 留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

試験に関して、学部の法社会学の試験が留学期間に入ってしまったため、法学部に追試申請を行いました。

⑥ 語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

出発する前から英語力は最低限のレベルがあったため、特にそのための学習は行いませんでした。

⑦ 日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

日本から持っていた方がいいものは忘れがちなものだと目覚まし時計、爪切り、周辺のガイドブック、カメラなどだと思います。

出発前には、私はテスト最終日と出発日が重なるというハプニングがあり、空港に時間に間に合うようにつくのにそうとう苦労しました。テストの日程とかぶる可能性が少しでもある場合は、夜など遅めのフライトの時間にするか、日程をずらせるようにしておくのが大事だと思います。

現地の気候を調べてそれに合った服を持っていくのも大切だと思います。とくにアメリカは広いので地域ごとに気温が違う場合が多いです。

学習・研究について

① プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

Summer Session なので基本的に現地の生徒と一緒に学期中と内容が変わらないことを短期間で学習していくというものでした。授業のうち、ひとつは講義とディスカッション中心、もう一つは講義中心でした。予習に関しては、どちらも平均して毎日20-30ページくらいの学術文献または教科書の範囲を読まされて、その内容を前提として授業を行っていくというスタイルでした。しかし現地の生徒でも予習をしてこない人は多く、逆に授業で内容を先に把握してあとで復習をかねて教科書や文章を読んでいる人も多かったです。私は読み物に関しては基本的に予習でこなし、授業中は先生の言っていることをノートにとり、復習としてノートをまとめて読み物で重要で会った部分だけ読み直してい

ました。しかしこの普段の予習とは別にエッセイや宿題が出る場合があります基本的には勉強は授業に追い付かず、週末に復習や予習を追い付かせていることが多かったです。

印象に残っている内容として、国際関係の授業のエッセイで現在のウクライナ情勢に関して授業中に習った3つの視点のうちどの視点からもっともその情勢の原因を述べるができるかについて書いたことをあげられます。ウクライナについて歴史やニュースを読み漁り、学術文献も読み参考資料のきちんとした書き方なども教わり、アメリカ式論文の書き方を教わることができました。もう一つの授業のアメリカ学では、アメリカの歴史の負の側面、帝国主義や植民地化のための原住民の排除、奴隷制とそのあとの長きにわたる公民権運動などを学び、単純に興味深いと感じました。このような内容に関して現地の人と議論をできたのもいい経験となりました。

② 学習・研究面でのアドバイス

英語の文献を読むときはあとで読み直したときにどこが重要であったかわかりやすいよう、下線を引くまたは、ハイライトしながら読むと自分でも理解しやすいと思います。授業中はとにかく集中して先生の言っていることを聞き取ってノートにどんどんとっていかないと、授業中のスライドや文献だけでは授業の内容が完璧には理解できなくなります。

③ 語学面での苦勞・アドバイス等

先生や教授は割とわかりやすくゆっくりとしゃべってくれますが、現地の学生はとて早く英語をしゃべるので聞き取りにくいです。そういう時はもう一回行ってくれるように頼んできちんと内容を理解した方が、ディスカッションなどで有益だと思います。発言はそんなに気負わなくても現地の生徒も気軽にしているので間違っていることをおそれずどんどんした方がいいと思います。

生活について

① 宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

ホームステイを現地のエージェンシーに頼んで探してもらいました。

デービスにはいくつかホームステイエージェンシーがあるのですが一番ケアがしっかりしているのはDavisHousingService というところだといろいろ探して判明したのでそこをお勧めします。

家賃は6週間で1200ドル前後でした。個室で3食つきで、条件などは自分でいろいろ選べます。

② 生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

Davis の夏は基本的に暑いですが、乾燥しているので過ごしやすい暑さです。逆に夜は冷えることも多いので軽いじやえつなどは織物が必要です。服装はのちに書く理由で長ズボンや七分丈ズボンがおすすめです、現地の学生も基本的にズボンをはいています。室内は冷房が効きすぎていると感じることが多かったのでパーカーなどをいつも持ち歩いていました。大学周辺は大変田舎でゆったりしています。交通機関はほぼ全員自転車で通学しているほど自転車社会です。自転車道や自転車用の信号があるくらいなのでとても自転車で走りやすいです。ホームステイエージェンシーが自転車の貸し出しも行っていました。自転車で通学できる範囲を超えている場合は学校が巡回バスを無料で出しています。

食事は食堂に基本的にアメリカ的な食事施設があります。ホームステイ先が中国系アメリカ人であったためご飯など中語系の食事を私は基本的に食べていました。

お金ですが、現金を800ドルほど万が一のためもっていき、大きい額を払うときはクレジットカードを使用していました。クレジットカードはほぼどのお店でも小さい額から使うことができました。現金は自転車代やホームステイエージェンシーに頼んだ送迎代として必要でしたので、少なくとも500ドルくらいは持って行った方がいいと思いました。もう一つ注意しなければいけないのが、DavisHousingService に委託してホームステイ先を探してもらった後は、そのホームステイ先にお金を払うときに現金以外に支払い方法がありません。その現金は別にして持っていく必要がありました。

③ 危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

デービスは治安的には東京よりも安全なくらいで、夜遅くまで外を歩いても危険は特にありません。しかしホームレスが大学付近にいたりして深夜の幹線道路沿いなどは少し危険だといわれました。また、自転車の盗難やすりなどは起こる可能性が常にあるため警戒しておく必要はあります。

大学の医療施設がしっかりしており、学生は安く診てもらえるのでそこを利用するのがいいと思います。夏の間は虫刺されに用心する必要があり、蚊に刺されると西ナイル熱になったり、ノミに刺されて水ぶくれなど刺された箇所が晴れてしまったりする可能性があります。どちらもデービスで実際に発生していました。

健康管理としては、なるべく睡眠時間を削らないようにして生活管理をしっかりするようにしていました。

また、日本から救急セットと自分に合った胃腸薬と風邪薬は持って行った方が安心すると思います。もちろん現地でも購入はできます。

④ 要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

要した費用は全部で90万前後だと思います。そのうち、32万円は奨学金が支給されました。

内訳としては

航空費 20万

授業料 37万

教科書代(指定された文献の印刷代含め) 6千円

家賃 12万(3食食事代含め)

食費 2万

交通費(旅行の移動費、空港の送迎、自転車代) 4万千円

娯楽費 5万

⑤ 奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

このプログラムがそもそも奨学金月であったため、卒業生の寄付と、JASSO から支給されていました。

⑥ 学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

週末は基本的にデービス近郊にホストファミリーもしくは学校の友達と出かけていました。

タホー湖やヨセミテ国立公園などは学校が主催するプログラムで連れて行ってもらえます。

サンフランシスコやサクラメントなどは自分で出かけていました。

スポーツとしては川でラフティングをしに行きました。

派遣先大学の環境について

① 参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

デービス校の留学生プログラムには常に質問や相談ができるスタッフがいるので生活や学業の面でわからないことは質問メールなどを送れば教えてくれました。語学面に関しては日本人スタッフがほとんどいないためあまりサポート体制は整っていないと思います。

② 大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

図書館は広く自習スペースが多く用意されており資料も豊富で、印刷用のパソコンもここに 있습니다。この図書館にない資料はほかのカリフォルニア大学の校舎から取り寄せることも可能です。

スポーツ施設としては ARC Pavilion というところでタダで施設を利用できました。少しお金を払うとヨガやボルダリングなど様々なクラスに参加できます。

食堂はピザやサンドイッチ、メキシコ料理など簡易的な昼食を出しています。スタバやカフェもあるのでそこで休憩したり勉強したりして過ごすこともできます。

大学にはパソコンが自由に使えるスペースがあるほかに、Wi-Fi 環境がほぼ大学全域で整っているので使用できます。

プログラムを振り返って

① プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

サマーセッションということで、現地の学生と同じ授業に参加できたことが一番このプログラムで意義があったと思います。ただ英語の勉強をするのではなく、英語を用いた小論文の書き方、学術文献の読み方、ディスカッションの仕方などを学ぶことができ、ひたすら英語を日常的に利用していくことに慣れることができました。また、普段の学期中に教えていることをそのまま凝縮して短期間で教えてくれるため、とった授業の内容に対する理解もそれなりに深めることもできました。このような意味でアメリカの大学に実際に通ったらどのような感じなのかをそのまま体験することができたと思います。成長したのはライティングや読解などの英語力はもちろん、自立性や問題対処能力など人間的な面でも多少は成長できたと思います。

③ 参加後の予定

長期留学プログラムに参加するための準備を始める予定です。

④ 今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

アメリカの授業の様子を知りたい、英語力を伸ばしたいと考えている学生にはぴったりだと思います。

また、週末はカリフォルニアの雄大な自然やサンフランシスコなどの都市に遊びに行けて充実した時間を過ごすことができます。

その他

① 準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

地球の歩き方 サンフランシスコ版

<http://www.ucdavis.edu/index.html>

<https://www.davisairporter.com/index2.html> 空港からのトランスポーターションに便利、安い

<http://www.davishousingservices.com/> 利用したホームステイ仲介サービス

② その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時):

参加プログラム: UC Davis Global Study Program – Summer Session 2 派遣先大学: UC Davis

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

⑤民間企業(業界:未定) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

カリフォルニア大学の一つデービス校は、カリフォルニア州都サクラメントからバスで 1 時間ほどの所にある。農業関連の研究が盛んであり、学内には牛や馬がおり、畑やビニールハウスもある。夏はほぼ快晴が続き、昼は 30℃を超えるが夜は 20℃程度まで下がり、乾燥したすこしやすい気候である。キャンパスが非常に広く、自転車が必須。

参加した動機

海外の大学院に行くことを検討しており、海外の、特に研究先進国のアメリカの大学の授業および学生生活がどのようなものであるか体験したかったため。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

留学先の大学から直接メールが届き丁寧な指示があるため、それに従っていれば問題ない。デービス校は留学生を積極的に受け入れていることもあり、とても親切である。小さいことでも事務所にメールで問い合わせると 1~2 日で返信をもらえる。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

学生ビザの取得が必要である。アメリカ大使館まで面接を受けに行く必要があり、時間と費用が思っていたよりかかった。8 月初めの渡航で、5 月から手続きをはじめ、6 月中旬ごろに面接を受けた。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

特になし。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

一般的な海外旅行傷害保険に加入した。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

特になし。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

出発前の学期において英語の論文を読む授業があり、理系の専門用語に触れる機会があった。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

英語の聞き取りに関しては久しぶりであり、アメリカの空港で乗り継ぐ際に英語が聞き取れずに飛行機に乗りそこねるという事態となった。英語の資格試験を受けてからしばらく空いている場合は、出発前にリスニングだけでも復習しておくことをおすすめする。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

授業は 6 週間ある。多くのクラスは第 3~4 週に中間試験があり、最後の授業が期末試験となる。私は留学生用の論文ライティングクラスと統計数学の 2 つを取った。

・ライティングクラス(2 単位)

毎週火・木の 10:30~12:00。授業の最初に与えられた文を読んでエッセイを書く。中盤は先生がパワーポイントや Prezi を用いて「アメリカの大学生活を成功させるには」という大きなテーマのもと、授業の受け方やテスト対策、教授の活用方法など毎回違う角度から話をする。授業の後半は、それを聞いて 2~3 人のグループでディスカッションをし、最後にグループごとに発表する。宿題として 500~1000 語程度の論文を数回書く。受講者の内訳は、日本人 1 人・韓国人 1 人・ブラジル人 3 人・中国人約 20 人。留学生用の授業のため先生の話は聞き取りやすく明快だった。宿題の量もちょうどよかったように思うが、作文の添削がなされると言いながら 3 週間以上引き伸ばしになって今もまだ音沙汰がないことが少し残念である。

・統計数学(4 単位)

毎週月・火・水の 8:00~10:10(途中に 5 分休憩あり)。1 年生夏学期の基礎統計を発展させたような内容。先生がスライドを用いて解説し、内容の区切りごとに黒板で例題を解く。週 1 回程度宿題が出て、レポート形式で提出する。週 1 回 2 時間のオフィスパワーの他に、宿題や試験の時期には学生の質問に回答する時間帯が設けられた。第 4 週に中間試験があったが、過去問が配布された上、問題の詳細を事前に知らされたため、かなり容易に感じた。期末試験も同様。受講者は約 25 人。留学生は 1 人であり、UC Davis の学生と他の UC の学生がほとんどであったが、ついていくのに問題はなかった。少人数のため先生が学生の名前を覚え、授業中に名指しで当ることがあった。

授業が少ない上に全て午前中に終わるため、余裕のある生活だった。午後は宿題や復習の時間にあてた。もっと授業を多くとることも可能だが、6 単位を超える場合は追加の授業料が発生する。多くの学生は 6~8 単位分の授業を取っていた。週末にかけて遠出しようと金曜日に授業を入れていない人が多かった。

②学習・研究面でのアドバイス

わからないことはオフィスパワーを利用して教授に直接聞くのが良いと思う。他の UC から来たアメリカ人学生が言っていたのだが、UC Davis は UC の他の大学に比べても教授が非常に教育熱心ということである。教授の部屋はオープンであり、訪問しやすかった。

③語学面での苦労・アドバイス等

留学生に親切であり、語学面で困ることは少ないと思う。各所オフィスの人々は丁寧に対応してくれるので、何かあればとてあえず聞きに行ってしまうのが早い。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

大学内にある寮に滞在した。寮の食堂にて朝昼晩 3 食つき。カードキー式。講義棟まで自転車で 5 分~10 分程度。一人部屋と二人部屋を選べる。私は二人部屋を選択し、他の UC から来たアメリカ人と同室であった。数部屋単位でシャワーとお手洗いがあり(毎日清掃が入り、とても清潔)、各階にラウンジがある。1 階には広間(テレビとピアノがある)とキッチン、洗濯機と乾燥機がある。水の補給場所があるので水筒を持参するとよい。Wi-Fi あり。空調は寒い(いつも 25℃を下回っていた)ため、オフィスで毛布を借りた。寮は通年の学生と夏のみ留学生が混在していた。寮生の大半はアメリカ人であり、残りは中国人 20 人くらい・日本人 1 人・韓国人数人・インド人 3 人など。アイスクリームパーティーや映画鑑賞会、フリートークナイトなどのイベントが頻繁に企画され、他の寮生と知り合う機会が多くあった。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

食事が 3 食ともついていたので週末に出かける以外で現地での出費はあまりなかった。大学のすぐ横にダウンタウンがあり、買い物をしたり映画を見たりできる。バス(Yolo バスといって、学生証を提示すると無料で乗車できる。サクラメント空港もこのバスで行ける)で 1 時間のところにサクラメント・電車や車で数時間のところにサンフランシスコ・車で数時間のところにヨセミテ・飛行機で 1 時間半のところにロサンゼルスがあり、週末に出かけることができる。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

Davis は、寮のアドバイザーの言葉を借りると"crazily safe"で、のんびりと穏やかな雰囲気である。人々もとても親切であり、ダウンタウンで電気屋を探していた時も丁寧に教えてくれた。日中の外は焼けるように暑いのに対し室内の空調は寒いくらいなので、その寒暖差には注意が必要。体調を崩した際には大学にヘルスセンターで診てもらうことができる。どのような手続きを踏めばいいかなどは最初に全員が受けるオリエンテーションで丁寧に説明されるため安心である。

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空賃: 30 万弱(成田⇄サンフランシスコ経由サクラメント)

授業料: 35 万

寮費(3 食付): 30 万

教科書代: 5000

食費: 寮費に含む

交通費: 14000(自転車のレンタル)

娯楽費: 4 万

計: 約 100 万

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

東大・JASSO あわせて 32 万

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

大学内に ARC と呼ばれる大きな運動施設があり、平日はほぼ毎日利用した。他にも、学内にプールが 2ヶ所あり、暑いデービスでは人気がある。水着を持っていくことを推奨する。週末は

第 1 週: アウトレットショッピング(大学が企画した留学生向けのツアーに参加)

第 2 週: サクラメント(授業が一緒だった知り合いと)、Lake Tahoe(上記の留学生ツアー)

第3週: Point Reyes での Backpacking Tour に参加

※大学に Outdoor Adventures という組織があり、UC Davis 生向けにハイキングやラフティングなどのツアーを開催している。詳細は HP から見る事ができる。私はテント1泊のバックパッキングツアーに参加した。2日間の歩行距離が40kmのタフで刺激に満ちたツアーであった。

第4週: 試験勉強

第5週: ロサンゼルス(3泊4日。寮の知り合いと)

第6週: サンフランシスコ(留学プログラム終了後1週間滞在)

他には、ヨセミテのツアーに参加している人が多かった。祝日を利用して東海岸のニューヨークまで行っている人もいた。アルバイトをしている人は知り合いの中にはいなかった。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

最初にオリエンテーションがあり、丁寧な説明がある。わからないことがあればオフィスが親切に対応してくれる。同じプログラムに参加している東大生同士での情報交換も大いに助かった。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

図書館の規模は東大(本郷)と同程度。運動施設(ARC)は非常に立派で利用者が多い。中庭にハンモックがあり、休憩にちょうど良い。Wi-Fiは整備されている。キャンパスが広いため、移動は自転車。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

語学については、ほとんど日本人に会わない環境であったため、大いに鍛えられた。自分で情報を収集しなければいけなかったため、積極的に質問、コミュニケーションする姿勢を身につけることができた。教科書には出てこない日常会話のあいづちなど、留学ならではの学習成果もあった。さらには、英語で論文を書く練習をする授業をとってため、話し言葉だけでなく文章を書く能力も向上させることができた。勉強面では、大学の授業で統計数学を学んだ。英語を手段として他の事を学ぶことができたというのは大きな一歩だと思う。

しかしながら、他の留学生に比べるとまだまだであり、今のままでは置いていかれると痛感した。もっと磨くには今回は短期間であり、長期で海外に出る必要があると確信した。大学院から海外に行くことを具体的に検討しようと思う。

また、他の留学生、特に中国からの留学生と話すことが多い中で、他国との関係や歴史について考えさせられた。しかし、そもそも意見を持つほどの知識がない、日本についてよく知らないことを痛感し、自国について理解を深めようという認識を新たにしたい。

②参加後の予定

海外の大学院に行くこと本格的に検討しようと思う。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

UC Davis の Summer Session は6週間であり他のプログラムに比べてかなり長い。そのため Davis に住む、その学生として勉強する、という経験ができる。東大との違いをじっくり見ることができ、様々な学生と交流しかなりつこんだ話ができるまで深く知り合うこともできる。UC Davis は UC の中でそこまで人気のある大学ではなく、日本での知名度も低い、環境は非常に良く、他の UC から来た学生も驚いていたほどである。研究をメインとするなら物足りないのかもしれないが、学業・生活・環境すべてを含めた総合的な観点からはこのプログラムを逃すのはもったいないといえる。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

大学のホームページ。サマーセッション専用のページもある。Facebook の UC Davis 関連のページ・グループも役に立った。

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

寮の外観(右)と、寮の部屋の様子(下)。寮は3人部屋として作られていたが、2人で使った。

